

11 高良社 (旧八幡神社本殿)



指 定 国重要文化財 昭和17年12月22日
 所在地 蓬 田
 所有者 八 幡 神 社



旧中山道（国道142号線）沿いの八幡神社境内にある高良社は、八幡神社の旧本殿で、天明3年（1783）に新たに本殿が建立されたさいに、現在地へ移されたものである。

その棟札の表の墨書銘から、現在の高良社は、延徳3年（1492）9月29日に滋野（望月）遠江守光重らによって建立されたものであることが知られる。また棟札の裏には「そもそもかの八幡宮の御事、その始め数百歳を送るといえども、更に建立の始めを知らず。ここに滋野遠江守光重、望月御牧中悉く本意を致し知行をなす。その懇祈によって、かの宮をその砌に造立し奉るなり」（原漢文）と記されている。これによって、高良社（八幡宮）の創建は、これよりさらに数百年さかのぼること、それを滋野光重らが再建したものであることが知られる。なお、高良社は「高麗社」の転訛したもので、朝鮮半島からの渡来人に関係した社であるとする説があるが、証明はされていない。

祭神は、高良玉垂命（この神については諸説があるが、武内宿禰とする）。八幡・蓬田・桑山三か村の鎮守として広く信仰された。また武神として、歴代小諸藩主からも厚く庇護された。

構造は、三間社流れ造り、柿葺。500年前の姿を現在に伝えている。昭和17年（1942）12月に国宝に指定され、昭和25年（1950）8月に国の重要文化財に指定された。昭和40年（1965）に解体修理工事が行なわれ、『重要文化財八幡神社境内高良社本殿修理工事報告書』が刊行された。